

# 第1回 NITS 大賞（平成 29 年度）エントリーシート

和歌山県立田辺工業高等学校

C-29

**【活動名】** 授業改善を通じた学校組織力向上を図るアクションラーニング型校内研修

～ 行動【アクション】から学び、チーム学校をエンパワーメントする～

**解決すべき課題：** どんな問題を解決しましたか？

主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業実践および複雑化する課題に対してチーム学校としての組織力向上が大きな課題となっている。そのような状況の中で、実際の行動【アクション】から学び、アクションラーニング型校内研修の実践を通して以下の3項目を重点課題と考え、解決に取り組んだ。

学校全体での公開授業を通じた授業改善および新たな授業実践に必要なスキルの向上（他教科の授業実践からの学びと目標や情報の共有）

知識伝達型の校内研修から実践型の校内研修への改善（講義形式から実際に行動【アクション】することで学びを深め、スキルを高める研修へ）

チーム学校の確立と学校組織力向上（複雑化する課題に対応するため、校内での新たな協働体制を構築し、チーム学校をエンパワーメント）

**目的や背景：** 解決すべき課題の背景や、活動の目的をおしえてください

育成すべき資質・能力を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現を図るための不断の授業改善が求められている。その過程においては、ICT教育等の新たな授業実践スキルの向上・獲得が必要となっている。また、複雑化する課題に対して学校がチームとして対応していくために学校組織力の向上が不可欠となっている。しかし、本校においては、各教科で授業改善に取り組んでいるものの、共通の目標を設定して協働的に取り組む実践が少なく、情報の共有や組織力の向上が十分に図れていない。現職教育を実施しても、知識は得られるが、研修内容が実際の実践に結び付いていない現状がある。

そこで、学校組織力向上を目標に、チーム学習として学校全体の公開授業を通じた授業改善と校内研修を実施した。実際に行動【アクション】しながら経験を通して課題を省察し、継続的に必要なスキルを高め、学校全体の組織力を向上【エンパワーメント】させる校内研修に取り組んだ。また、同じ課題を共有することで、チームとしての結束力を高め、校内での新たな協働体制を構築することも目的とした。

**活動内容：** 何をしましたか？

教員の学びがもっとも深まると思われる現場で実践すること【アクション】、先輩や有能な同僚教員から直接学ぶことを重点に、チーム学習として実際に行動を起こすことと行動から学ぶことを繰り返しながら、継続的に授業実践に必要なスキルを高め、学校全体の組織力の向上に取り組んだ。

課題と実施目的の共有・実施方法と全体計画の提示・授業改善 PDCA の提示

チームビルディング：小さな学習する組織（各チーム4～5名）を作り、チーム別に課題を設定、共有し、行動と相互作用を通して継続的に学習

様々な教科の教員でチームを構成（教科や学年をこえた連携）必ずベテラン教員と若手教員を配置（ベテラン教員にメンター的な役割を）

チーム別課題例（ICT機器活用による協働型授業 情報機器を活用したAL型授業 生徒の現状に適したAL型授業実践 など）

期間を設定し、各チームで【公開授業実践】 【授業実践のリフレクション】 【課題の共有】 【知識・スキルの獲得】 【授業改善】を繰り返し実践

期間内に定期的（各考查期間ごとに年5回）に学校課題についての共通研修と新たな授業スキル向上の校内研修を実施

学校課題についての共通研修内容例（SWOT分析による学校課題の整理 KJ法による生徒の現状に合わせた授業改善のポイント 次期学

習指導要領の内容理解 特色ある工業高校の事例研究 など）

授業スキル向上研修内容例（アクティブラーニング・ジグソー法による授業実践事例研究 ICT機器活用能力の向上 効果的なスライド教材の

作成方法 PowerPointスライド作成技術 など）

新しく身に付けたスキルを実践、授業改善に活用（公開授業の実践に活用）

頭で理解したこと、身につけた知識を実際に行動【アクション】に移す（実際の【アクション】なくして教員の学びは深まらない）

学校全体で実践の共有とリフレクション（実践知識の交換と共有を促進し、新たな視点や知識を生み出す【エンパワーメント】協働体制構築）

外部専門家を活用した実践のまとめを実施・ICT教育の専門家である和歌山大学教育学部教授豊田充崇氏による授業実践への講評と新

たな課題の抽出・次年度につなげるための学校全体でのリフレクションの実施

実施期間内に上記内容に各チームまたは全体で取り組み、継続的に学習を深め、学校組織力の向上【エンパワーメント】につなげる活動を実践

**活動の成果：** それによって、どんな成果が得られましたか？

・学習したことを実際に行動【アクション】することにより、教員としての学びが深まり、能力の向上が実感できた。

・教科をこえてメンバーが集まり、対話し、協働することでお互いが認め合い学校組織内に存在する見えない壁をこえた実践につなげることができた。

・時にはオフサイトミーティングを交えて、教科、学年や分掌をこえたフラットな研修によりお互いが組織の一員としての肯定感を高めることができた。

・他教科の視点からの授業改善は、自分の教科に対する思い込みや前提に気づき、必要に応じて変化を促すきっかけにすることができた。

・新たな授業実践知識やスキルの獲得（個々の教科で応用できる知識やスキル、組織として問題解決に取り組む知識やスキルの獲得）

・チームによる活動が、アイデアの交換と共有を促進し、新たな知識を生み出し、学校組織としての新たな授業手法等の蓄積につなげることができた。

・新たな実践スキルを獲得し、ICT機器を活用する授業が増加

（プロジェクト固定教室使用教科・時間の増加 板書時間の短縮により主体的に取り組む時間の増加）

**アピールポイント（アイデア）：** もっとも、がんばったこと、注目したことをアピールしてください。

**行動を起こすことと行動から学び、省察すること 教員が学びを深め、協働することで、自分の仕事についてますます情熱的になってくること**

上記2点を基本方針としてもっとも注目し、教員個々の能力向上を図りながら学校組織力を高めることにつながる視点を常に考えて取り組んだ。

特に、・教科をこえたチームによる対話や協働により少しでも学校組織内に存在する見えない壁を取り払うこと

・教員としての学びをもっとも深めるため、校内研修で実際に獲得した知識やスキルを実践すること

・単独で頑張っても学校組織全体の改善は成功しないため、目標を共有し、お互いが学び合っ協働する研修方法を考え、実践すること

については、工業高校としての学校組織力向上に不可欠である普通教科と専門教科の連携強化につなげるために注力して取り組んだ。

**【参考文献】** マイケル J. マーコード(2004)『実践アクションラーニング入門』（清宮普美代/堀本麻由子訳）ダイヤモンド社

マイケル・フラン(2016)『The Principal』（塩崎勉訳）東洋館出版社



# 授業改善を通じた学校組織力向上を図るアクションラーニング型校内研修 ～行動【アクション】から学び、チーム学校をエンパワメントする～



和歌山県立田辺工業高等学校 教務部長・教諭 阪本 貴弘

## 現状の課題と目的

【課題】○主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業実践と授業改善  
○複雑化する課題に対してチーム学校としての組織力向上

【目的】①学校全体での公開授業を通じた授業改善および新たな授業実践に必要なスキルの向上  
②知識伝達型の校内研修から実践型の校内研修への質的改善【アクション】  
③チーム学校の確立と学校組織力向上【エンパワメント】



実際の行動【アクション】から学び、  
アクションラーニング型校内研修の実践

## 活動の内容と流れ

【チームで実践する授業改善を通して学校組織力向上を図る】

### ①課題と実施目的共有

- 学校全体で
  - ・実施方法の提示
  - ・全体計画の提示
  - ・授業改善PDCAの提示
  - ・実施目的の共有



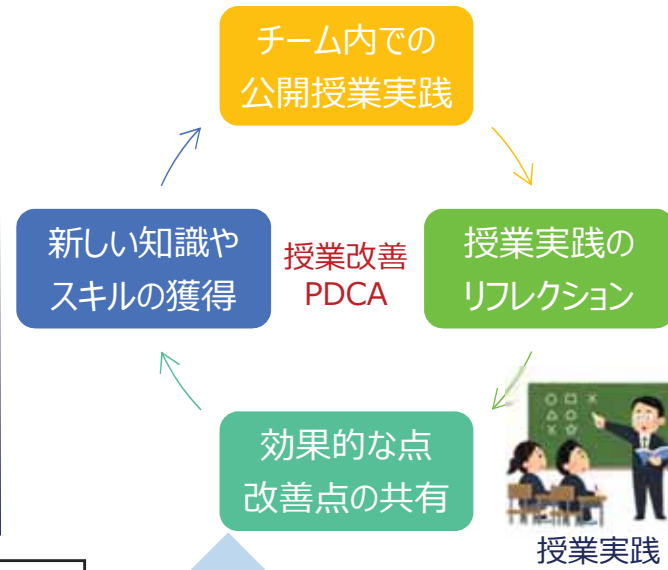
### ②チームビルディング

- 小さな学習する組織を構成
  - ・各チーム4～5名
  - ・教科や学年をこえた様々な教員でチームを構成し、連携を図る
  - ・ベテラン教員と若手教員を配置（メンター的な役割）
  - ・チーム別に課題を設定
- チーム学習により協働体制を構築



### ③公開授業・授業改善の実践【アクション】

- 各チームで公開授業を通じた授業改善を実践



### ⑤新たなスキルを実践【アクション】

- 新しく身に付けたスキルを実践
  - ・授業スキル向上研修で身に付けた知識やスキルを授業実践に活用
  - ・ICT機器活用
  - ・アクティブラーニング
  - ・ジグソー法 など



### ⑥まとめと共有【エンパワメント】

- 学校全体で実践の共有とリフレクション
- 外部専門家を活用したまとめを実施  
和歌山大学教育学部教授豊田充崇氏（ICT教育専門家）
- お互いが学び合い協働する体制を構築



※チーム別課題例 ・ICT機器活用による協働型授業  
・情報機器を活用したAL型授業  
・生徒の現状に適したAL型授業実践 など

【新たな知識】

【教員としての学びを深める活動を実践】

### ④学校課題についての研修・授業スキル向上研修を継続的に実施【エンパワメント】

- 実施期間内に定期的にチームとは別の学校課題共有のための研修・授業スキル向上研修を実施（計10回実施：平成29年12月現在）  
組織で学校課題を考えるための研修と授業実践に必要なスキルを継続的に高める研修

研修テーマ ①SWOT分析による学校課題の整理 ②KJ法による生徒の現状に合わせた授業改善のポイント ③次期学習指導要領の内容理解  
④特色ある工業高校の事例研究 ⑤工業高校をとりまく現状と課題の理解 ⑥アクティブラーニング・ジグソー法による実践事例研究  
⑦ICT機器活用能力の向上 ⑧効果的なスライド教材の作成方法 ⑨PowerPointスライド作成技術基礎編・応用編 ⑩学習評価について

## 活動の様子とまとめ

【各活動の様子】

### 1.チーム学習



### 2.公開授業



### 3.校内研修

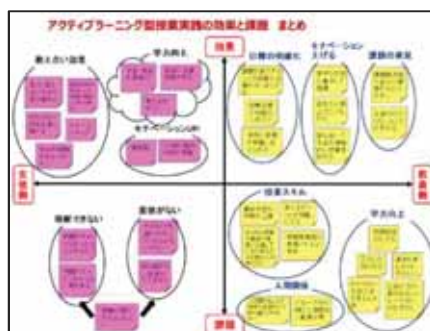


### 4.専門家によるまとめと共有



### 【研修の成果物】

- SWOT分析による学校課題の整理
- OKJ法による授業改善のまとめ



### 【教員の感想（抜粋）】

- ・全職員が自らの授業改善に前向きになる学校全体の雰囲気が必要だと感じました。
- ・研修を受けたあとはいつも「やれる。やってみよう！」と思います。
- ・普段考えていないことを考える非常に良い機会になっています。

行動【アクション】から学び、  
チーム学校をエンパワメント

